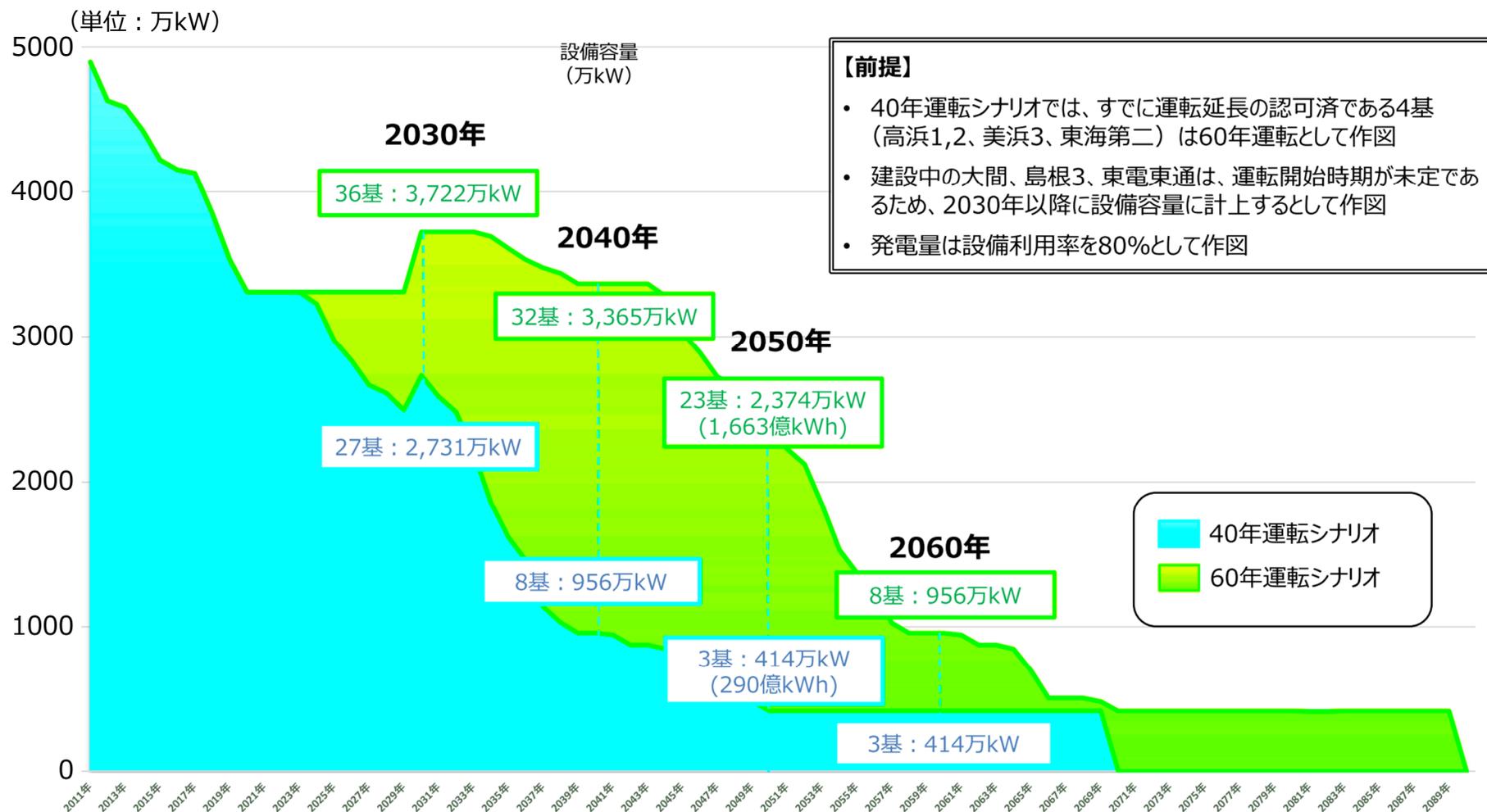


国内原子力発電所の将来の設備容量の見通し

- 廃炉が決定されたものを除き、**36基の原子力発電所（建設中を含む）が60年運転すると仮定しても、自然体では、2040年代以降、設備容量は大幅に減少する見通し。**



【前提】

- 40年運転シナリオでは、すでに運転延長の認可済である4基（高浜1,2、美浜3、東海第二）は60年運転として作図
- 建設中の大間、島根3、東電東通は、運転開始時期が未定であるため、2030年以降に設備容量に計上するとして作図
- 発電量は設備利用率を80%として作図

※年途中で期限を迎えるプラントは按分してkWを算出。按分しない場合、40年シナリオの2030kWは2,787万kW、60年シナリオの2050年kWは2,430万kW。

出典：経済産業省 第21回 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会（2021年2月25日）

「資料3 事務局提出資料」より岩淵友事務所作成

2021年6月3日 参議院経済産業委員会提出資料① 日本共産党 岩淵友